

日頃の備え

県内には多くの活断層があり、これらが活動した場合、マグニチュード7程度の大地震になると推定されます。また、津波が発生する場合についても、地震による家屋倒壊等の大きな被害を受けます。

阪神・淡路大震災や東日本大震災、熊本地震の教訓に学び、日頃の備えに万全を期しましょう。

住宅の耐震化と家具の転倒防止

阪神・淡路大震災では、亡くなった方の8割以上が、建物の倒壊や家具の転倒による窒息死・圧死でした。また、けがをした方の半数近くは、家具の転倒によるものでした。

建物の安全性を高めるなど、「命を守る」「けがをしない」ための環境づくりが、地震対策の第一歩です。

耐震化の支援

昭和56年5月以前に着工した木造住宅は、耐震診断を受けましょう！

①耐震診断

(富山県木造住宅耐震診断支援事業)

住まいの耐震診断について
県が9割負担
自己負担は、住宅規模などに応じて
2,000円～6,000円

次の要件を満たす住宅が対象

1. 木造の一戸建てで、2階建て以下のもの
2. 昭和56年5月31日以前に着工して建てられたもの
3. 在来軸組工法によるもの
(柱・梁・筋かいで支える工法です)

②耐震改修

(富山県木造住宅耐震改修支援事業)

住まいの耐震改修について
最大60万円まで補助

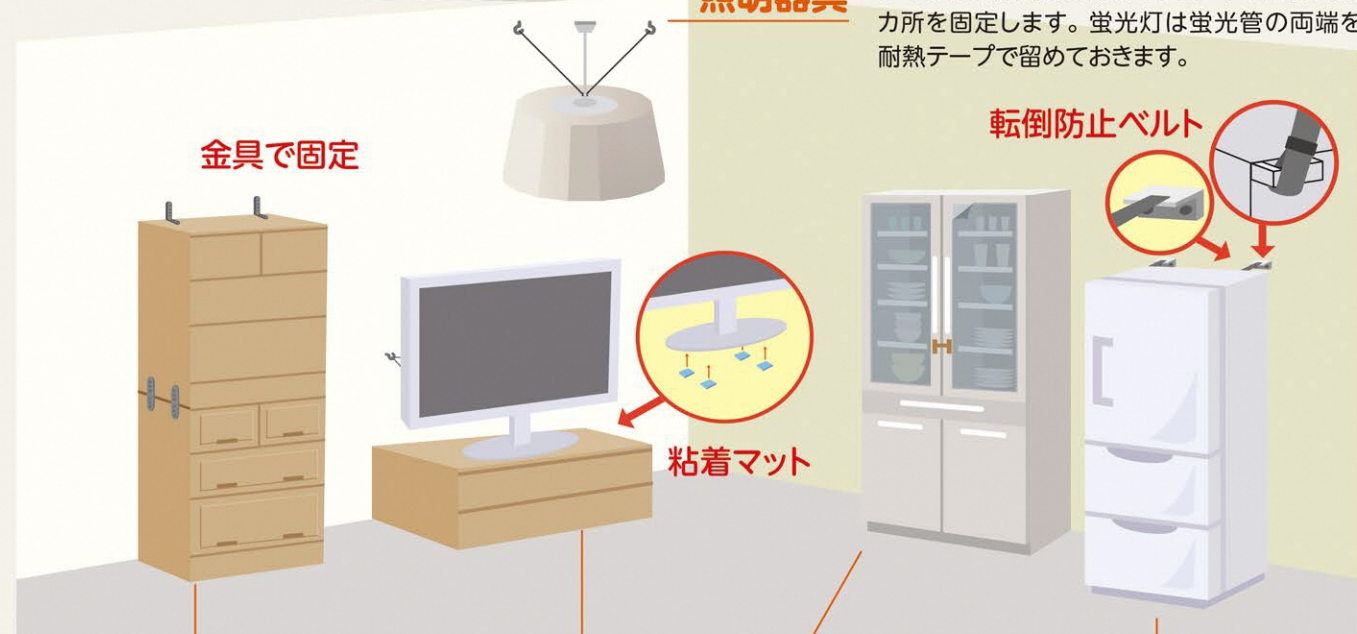
耐震改修の工事費について、県と市町村が支援します。(部分的な改修も補助対象)

詳しくは、富山県のホームページを確認！

http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1507/kj00002134.html

耐震性が不十分な場合

家具の転倒防止



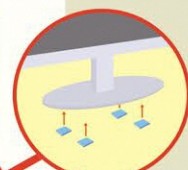
照明器具

つり下げ式の照明器具は、チェーンと金具で数カ所を固定します。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで留めておきます。

転倒防止ベルト



粘着マット



タンス・本棚

タンス・本棚はしっかり固定しましょう。上下に分かれている家具は継ぎ目を金具で連結しておきます。

テレビ・パソコン

テレビを固定するには粘着マットやストラップ式の固定器具を使う方法などがあります。

食器棚

両開き扉タイプの食器棚は、扉が開かないように止め金具を付けます。ガラス面には飛散防止フィルムを貼ると安全です。

冷蔵庫

ベルトの取り付け口や取っ手に転倒防止用のベルトを通して、ベルトの端を壁の下地材のあるところに固定しましょう。

食料・飲料水の確保

災害発生直後は、救援物資が十分に行き渡らない場合があります。非常食や飲料水などは、最低3日分(推奨1週間分)を家庭で備蓄しておきましょう。

備蓄品の例

食料

お米やアルファ米、レトルト食品や缶詰、カップ麺など。



飲料水

水(飲料と煮炊き分)は大人1人1日あたり3リットルが目安。水の配給を受けるためのポリ容器もあるといです。



燃料

卓上コンロや固形燃料、予備のカセットガスなど。



工具類

救助活動に使えるバール、のこぎり、ハンマー、ロープ、スコップなど。



その他

簡易トイレ、毛布・寝袋、防寒具、紙皿・紙コップ、マスク・使い捨てカイロ、ウエットティッシュ・トイレトペーパー、電池式ラジオ、ライフジャケットなど。



備蓄のポイント！

- 食料や飲料水は最低3日分、できれば1週間分を備蓄。
大人1人1日あたり、水は3リットル、食料は2,000キロカロリーが目安。
- 食料は消費期限、ラジオなどの電化製品は電池切れなどに注意。
乾電池やカセットガスなどは余分に用意します。
- 家族構成などで備蓄品は異なります。家族にとって本当に必要な物を考えて準備。

例えば…

乳幼児：粉ミルク、離乳食、ほ乳瓶、紙おむつなど
高齢者：介護用品、持病の薬など
ペット：ペットフードなど



使いながら備える「ローリングストック」とは？

- 日頃購入している食品を少し多めに確保して、消費期限の近いものから消費し、同時に新しいものを補充していく方法です。
- 食料や飲料水をたくさん保存しておくことだけが備蓄ではありません。

